

■□要旨■□

1. 今回講義の論点

日本企業からイノベーションが起こりにくいのは、組織風土という構造的な原因がある。しかし、日本の人材の質は、アメリカと変わらない。日本でコンペティティブな人は、アメリカでも力を発揮できる。では、イノベーションを起こすために私達が心掛けるべきことは何か？

2. イノベーションを起こすために、心掛けたいこと

(1) 塾生からの意見を受けて

一つは、組織に多様性を持たせること。転職者の採用や、素人と専門家を組み合わせる等。他分野の事例を抽象化して取り入れた成功例もある。もう一つは、常に遊び心を持ち続けること。発想の転換、他者の意見を傾聴し過ぎない、「面白い」という感性を評価・判断の軸にする等。

(2) 山口講師からの10カ条

- ① 大義を持つ・・・哲学を持って世界・社会に目を向け、世の中の課題に向き合うこと。その課題を解決したいという思い(大義)から、イノベーションが生まれる。
- ② フォロワーシップを持つ・・・イノベーションは、リーダーの突飛なアイデアに賛同するフォロワーが現れ、チームが組成されることにより達成される。そのようなアイデアに対して、最初に革新の可能性を見出すファーストフォロワーの存在が大切である。
- ③ 権力を持つ or 権力を持つ人と仲良くなる・・・ヒト・モノ・カネを集中投下しないとイノベーションは進まない。その意味で、良い仕事をするためには出世が必要ということになる。
- ④ 「伝える技術」を磨く・・・換言すれば「人を動かす技術」。例えば、ナイチンゲールは戦中の病死者数の統計資料を明瞭に可視化して権力者を説得し、医療衛生改革を成し遂げた。
- ⑤ 組織の外側にネットワークを築く・・・組織の外側との接点を多く持つことが、イノベーションに繋がるアイデアの組み合わせを生む。自分がないと仕事が回らないなどということは無い。それよりも、人と会うチャンスを大切にすべき。
- ⑥ 虚心坦懐に見る・・・眼前の事象をやり過ごすことなく、それが意味する示唆や洞察を汲み取ることが大切。「自分は虚心坦懐に見られていない」と思って事象に臨むことが必要。
- ⑦ KYたれ・・・組織内に意図的に衝突を起こして、創造性を刺激することが必要。ただし、権力者と衝突すると③が成立しない。そのバランス感覚も大切。
- ⑧ 嫌われることを恐れない・・・イノベーターは万人に愛されるわけではない。嫉妬や嫌悪を恐れては、イノベーションは実現できない。
- ⑨ 専門家を恐れない・・・専門家の意見を過度に尊重すると、イノベーションは阻害される。専門家の実現力と、素人の発想力の掛け合わせが大切。
- ⑩ 直感を磨く、直感を信じる・・・直感が正しいものであるためには、背景にロジックとリベラルアーツが必要。論理をギリギリまで詰めたうえで、最後は直感で判断する。

■□今回の学び ひとことでいうと■□

日本は課題先進国といわれているが、一人一人がどう行動していくかにより、その将来はいかようにでも変化する。イノベティブな組織を作り上げ、世界を変革する「企業内革命家」であれ！



■□感想■□山口講師が塾生の発言を丁寧に拾い上げ、圧倒的な知識に基づく史実のエピソードを手掛かりに展開していくスタイルに、議論の充実感・納得感を得ることができ、理解が一層深まりました。この講義自体が、フォロワーシップ形成のお手本であったと感じます。山口講師の10カ条を自身の行動指針に据えて、日々変革を意識して行動すべく、思いを新たにしました。